

単元名 むしだいすき

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 生き物の世話をすることの楽しさや喜びに気付くとともに、生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付くことができる。
 (2) 生き物と触れ合いながら、生き物が喜んでくれるような世話の方法を考えたり、生き物について気付いたり感じたりしたことを表現することができる。
 (3) 生き物に親しみをもち、意欲的に生き物に触れたり世話をしたりして大切にしようとする。

標準的な展開例

01060202_001

【準備等】記録カード、虫を飼育するための容器、虫かご 等

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 秋の校庭などで、虫を探したり観察したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋の虫を見つけた経験や好きな秋の虫について伝え合い学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・コオロギが鳴いているのを聞きました。 ・赤トンボを見ました。 ・スズムシの鳴き声がきれいだから好きです。 ・ダンゴムシを飼ってみたいです。どんなところに住んでいるのか知りたいです。 ★虫を探しに行こう <p>○校庭で虫を探すときの約束を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校庭で虫を探したり、観察したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・手だと捕まえにくいから、何か道具があったらいいな ・トンボは帽子では捕まらなかったよ。 ・コオロギを枯葉の下で見つけたよ。すぐに逃げるからゆっくり枯葉をめくるといいよ。 ・バッタは草むらの中にいるよ。驚かせないようにそっと近づくといいよ。 ○仲良くなりたい虫を捕まえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・いっぱい捕まえたけど、ちゃんとお世話できるかな。 ・ちょっとこわいな。仲良くなれるかな。 ・バッタを捕まえたよ。草も一緒に入れよう。 <p>3 捕まえた虫を友達と見せ合い、捕まえた場所や捕まえ方を伝え合い、虫を観察して記録カードにかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ぼく・わたしの虫を友達に紹介しよう ○捕まえた虫を見せ合い、虫の種類や見つけた場所、見つけたときの虫の様子を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのコオロギは、枯葉の下にいました。そっと枯葉をめくったら、枯葉の下にまた隠れようと思いました。 ・草むらの中を歩いていたら、このバッタが急に飛び出してきました。バッタと草の色は似ているので、どこに行ったら、なかなか分かりませんでした。 ○虫を観察して、観察カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> ・虫の名前 ・見つけた日にち ・見つけた場所や、見つけたときの虫の様子 ・虫の色や形、動き ・気付いたことや思ったこと ・これからしてみたいこと <p>4～5 より適切な虫の飼い方を調べて、すみかを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★虫が喜んでくれるすみかを作って、もっと仲良くなろう ○虫が喜ぶすみかについて伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・バッタは草むらにいたから、すみかには草がいっぱいあった方が喜んでくれると思います。 ・餌がいっぱいあったら喜んでくれると思います。 ○虫の飼い方を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に保護者に向けて、虫を入れるための透明なパックや飼育ケースの準備を依頼しておくことよい。 ・教科書P. 92～93を見せ、好きな虫や見つけたことのある虫を発表させる。 ・普段の生活から夏と秋を比較させ、季節の違いに気付かせ、そこから見付けられる虫も異なることに気付かせる。必要に応じて教科書P. 56～57とP. 92～93を使って比較させる。 ・めあてを提示する際に、「むしだいすき」の単元名に注目させ、捕まえた虫をどうするか虫のことをどうやって知っていくかを考えさせる。 ・校内で近づいてはいけない場所、決められた範囲から出ないことなど、事前に指導する。 ・初めから虫を捕まえるための道具を持たせるのではなく、必要性に気付いた児童がいたら使うことを認める。 ・虫を見つけたことのある場所や見付かりそうな場所、虫の捕まえ方を共有させて、児童一人一人が仲良くなりたい虫を捕まえられるようにする。 ・児童に飼育ケースを用意させる。 ・何種類も捕まえた児童には、一人で世話をするため、飼いたい虫を一匹に決めるよう声掛けをする。 ・児童のつぶやきがあれば、その場で思い付いたすみかづくりを認める。 ・教室に戻ったら手洗いうがいなど衛生面の指導を徹底する。以降も同様に指導する。 【評】虫を捕まえる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・虫を近くで見せながら紹介できるように、4～5人程度のグループで伝え合わせる。 ・虫の様子を動作化させるなどして、捕まえたときの虫の様子を表現させるとよい。 ・自分が捕まえた虫とは異なる虫についても知ること、虫によって生息環境が異なることに意識を向けさせる。 ・教科書P. 95を参考にさせ、観察の仕方を知らせる。虫の形や色だけでなく、見つけた場所や見つけたときの虫の様子や動きなども絵で表すよう促す。 ・観察して気付いたことだけでなく、これから虫をどうしていきたいかなど、虫に対する思いや願いも書くよう指導する。 【評】伝え合いや記録カードを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ・虫が死んでしまわないように、前時の活動から時間と日を置かずに実施する。 ・虫を見つけた場所や見つけたときの様子を想起させることで、元いた場所に近い状態の方が虫は喜ぶのではないかというすみかづくりの視点をもたせる。 ・虫のすみかや食べ物について、教科書P. 94～

- ・本で調べる。(図鑑)
 - ・上級生や家の人に聞く。
- すみかを整える。

- 虫の世話をし、気付いたことを記録カードに絵や文でかく。
- ・ぼくの「ぴょん」は、捕まえたところの葉っぱをよく食べます。どんどん大きくなってほしいです。(バッタ)
 - ・わたしの「コロ」は、ナスが大好きです。喜んで食べてくれるから嬉しいです。(コオロギ)
 - ・最初はこわかったけど、毎日見ていると何だかかわいく思えてきました。
- 気付いたことを伝え合う。

6 虫をこれからどうするのか考え、元いた場所に虫を返す

- 虫をこれからどうするか話し合う。
- ・ずっと飼っていたけれど、家族と離ればなれはかわいそうだと思います。
 - ・やっぱり狭い虫かごより、広い草むらの方が楽しいと思います。
- ★虫とさようならをしよう
- 虫にお別れの言葉を言う。
- ・ぼくが毎朝取ってきた草を、いっぱい食べてくれて嬉しかったです。(バッタ)
 - ・ぼくより体が小さいけれど、一生懸命生きていたね。ぼくもがんばるね。

- 虫を元いた場所に返す。

95を参考にさせてもよい。

- ・どんなすみかなら喜んでくれるかを虫の立場になって考えさせ、「遊園地作り」「おもちゃの家づくり」にならないように留意する。
- ・飼育の過程で生じる新しい生命の誕生や死、成長など、生命の尊さを身をもって感じる出来事に直面した場合、虫との関わりを振り返り、命を守ってきた自分の存在について考える機会とする。
- ・観察して気付いたことだけでなく、虫に対する思いや願いも書かせ、虫への親しみを自覚させる。

【評】記録カードや伝え合いを通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・虫の立場になって元いた場所へ戻すかどうか考えさせ、児童が納得して虫を返せるようにする。

- ・虫にお別れの言葉を言うことで、自分と虫との関わりを振り返らせ、虫が命をもって生きていることや、虫の世話を続けてきたことで虫への親しみが生まれ、責任感が育っていることに気付かせる。
- ・「温かい動物」を扱わなかった場合、児童の実態に合わせて手紙を書いたり、ミニ発表会を行ったりすることも考えられる。
- ・校庭の虫の生息場所を大切にするように声掛けをして、学校への愛着を深めさせる。

【評】伝え合いやお別れの言葉を掛ける活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【評】単元を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】